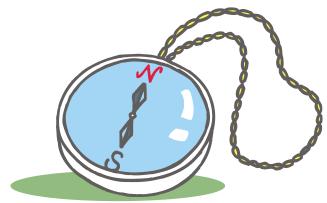


羅針盤



第 14 号

令和5年9月4日（月）

◆ 「あおいこま」の教え

「あおいこま」。この言葉は、前向きな自分に生まれ変わるために用いられる言葉としてよく紹介されている言葉です。「あおいこま」とは、5つの言葉の頭文字をとってきたものですが、具体的には、「あ」は「あ・せらない（焦らない）」、「お」は「お・こらない（怒らない）」、「い」は「い・ばらない（威張らない）」、「く」は「く・やまない（悔やまない）」、「ま」は「ま・けない（負けない）」といった、これらは、自分自身が逆境にある時、あるいは、くじけそうになった時などに、自分自身を戒めるための、つまりは、自分自身に言い聞かせるための「自戒の言葉」として捉えられている言葉でもあります。誰もが楽しく過ごせる毎日を望みながら日常の生活を営んではいるものの、ときには大きな壁が立ちはだかっているように感じられる困難な出来事や、思いもしなかったような不慮の事故などに、一生の間に全く出くわすこともなく過ごせることの方が奇跡的なことであるかもしれません。ただ、そんな事態に出くわした時にも、この言葉を心の中にとどめおいて、事あるごとに自分自身に言い聞かせるような機会を設けておけば、逆境となる事態に遭遇した時にも、腐ることなく前向きに物事をとらえて進みゆく姿勢を維持することができるのではないかでしょうか。「どうせ自分なんて、・・・」といったような思いにいたるようなことは誰もが経験してきたこと、だからこそ、そんな自分自身の気持ちが折れそうになり、自分自身に負けそうになった時には、この言葉が少なからず皆さん的心の支えとなってくれるかもしれません。言葉が持つ力を信じて、前向きに取り組むことができる自分自身の持てる力を信じて、日々成長していく皆さんであることを心より願っています。



◆ 二百十日（にひゃくとおか）を過ぎて

「二百十日（にひゃくとおか）」は、生徒の皆さんにとっては余り聞きなれない言葉かもしれません。「二百十日」というのは、立春の日を起算日として210日目のことを指します。季節の変化を把握するために設けられた雑節（季節の移り変わりをより的確につかむために設けられた特別な暦日のことです）の一つで、現在では、稻が開花を迎える9月1日ごろ（令和5年の二百十日も9月1日です）が二百十日に該当し、台風や自然災害が起こりやすい厄日ともされていて、安全な生活と切り離せない日となっています。二百十日から10月にかけては、台風が日本列島に接近・上陸する時期であり、歴史的な被害を受けた関東大震災や伊勢湾台風も、二百十日の時期に起きた自然災害で、国は9月1日を「防災の日」と定めています。「二百十日」が穏やかに過ぎ行くことを願いながら、「二百十日」を機に防災について今一度しっかりと考えておくことが大事なことだと思います。地震や台風などが起きた時の家族の待ち合わせ場所を決めておいたり、防災グッズを点検するなど、予測が難しい自然災害の備えを怠ることのないようにしておくことが必要ではないでしょうか。

